



特集

日本文化の特質

ポーランド点描新聞
『人空羽衣遠』⑩
自国認識と国際理解

ユニークな日本文明

米国の国際政治学者サミュエル・ハンティントン（1927- 2008）によると、世界の主要文明圏の中で、日本は一国のみで一文明圏を成す、世界でも珍しい存在であるとのこと。

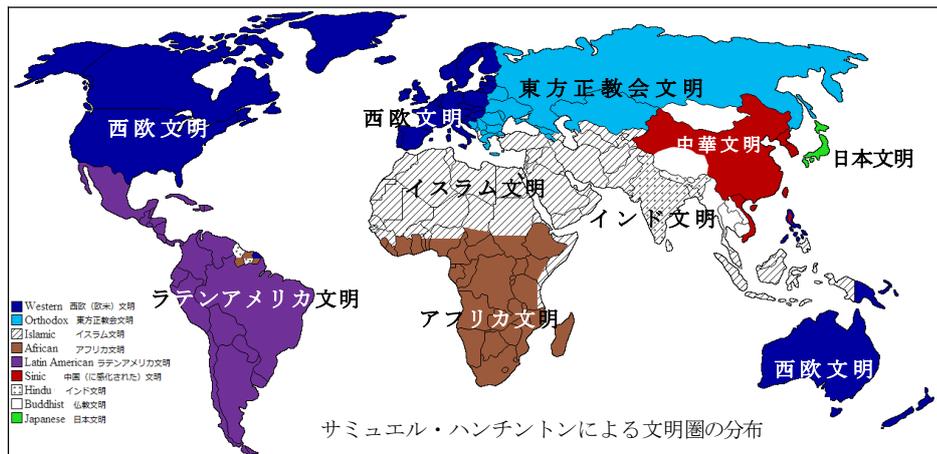
たしかに日本語の「もったいない」「切ない」「思いやり」等にあたる言葉は他の国には無く、質素で簡素な美しさといった意味合いの「わびさび」とか、武道における「道(どう)」や歌舞伎・能などにおける「間(ま)」の概念も他の文明圏には無いと聞きます。

日本文明がユニークであるということは独自の良さがあるということですが、一方では文明として孤立していることにもなります。好意的に注目されれば良い方向で理解されるでしょうが、反面、注目されず理解もされにくいというマイナス面もあり、誤解されやすいとも言えます。

日本の常識は世界の非常識

ワルシャワに赴任当初、「日本の常識は世界の非常識」であるということ海外経験の豊かな方から何度も聞きました。その時はそれが指す具体的な事柄までは意識しなかったのですが、今振り返ると、次のようなことも含むのかなと思ったりします。

- 美白がもてはやされる日本 ⇔ ヨーロッパの人はこんがり小麦色に焼けた肌に憧れます。又、東洋人の真っ直ぐな黒髪も人気があります。
- お客様は神様? ⇔ 日本の店でのマニュアル臭く丁寧(すぎる)対応に対し、欧米の店員は人として対等という意識で接客しているようです。
- 握手しながらのお辞儀 ⇔ ペこぺこ頭を下げる日本人の姿は、何かに謝っていると映るようです。
- 時間を厳格に守る日本 ⇔ しかし他国では日本のように電車が定刻通りに来るとは決して思わないことです。



(*文化=特定の地域や年代において主に精神的な事柄を表すもの。
*文明=文化の枠組を超えた制度や技術など。)

○水と安全はタダ同然? ⇔ 日本のレストランでは美味しい水が無料で提供されますが、ヨーロッパは原則有料です。又、日本のように水道の水がそのまま飲める国は少ないのです。日本では財布をお尻のポケットに入れて歩いている人を見かけますが、これは日本が治安の良い国だからこのことで、国外ではとても危険な行為です。カバンはジッパーをしっかり閉め、スリや置き引きにも十分注意する必要があります。「安全は与えられるものではなく自ら獲得するもの」というのが世界の常識です。

○綺麗にラッピングされた日本の野菜 ⇔ ヨーロッパでは、野菜や果物は量り売り(必要な量だけ自分で袋詰めして重さで計算)が原則です。キュウリやトマトなどは、形や大きさが不揃いなものも並べられていますが、客が自分の判断でより分けて購入します。こんなところにも「自己判断・自己責任」の文化が感じられます。



○協調性と我慢強さ ⇔ どちらも日本人の美德ですが、協調性を重んじるあまり集団や組織に埋没してしまったり、主体性や責任感の欠如につながることもあります。我慢も行きすぎると表現力の低下や改革する機会の喪失につながりかねません。

積極的な発信の必要性

日本の伝統的な文化に「以心伝心」「不言実行」などがありますが、これらは国内でのみ通用するものと考えべきです。孤立的な日本文化を海外で理解してもらうには、積極的に発信していく必要があります。責務は関係機関やメディアにあると考えますが、動きは遅く実に心許ない感があります。公共の電波を使う放送事業には特に高い公益性が求められています。スクランダルの追求やバッシングの連鎖から脱却して、メディア本来の使命の一つである国際情報発信に一日も早く力を注いでほしいと思います。

自国認識あつての国際理解

語学に堪能で、海外に関する豊かな経験や知識を有していたとしても、それだけで国際理解ができるとは思えません。自国の文化や歴史・現状などを正しく認識し、世界の中での日本を自覚してこそ国際理解だと考えます。

日本は決して資源の乏しい小さな国ではありません。国土面積は60番目ですが、領海を含む面積では世界第9位の大きさです。広大な海には豊かな漁場があり、石油・天然ガスや希少金属等の天然資源が眠っています。こういう認識も国際理解の根っこにあるべきだろうと考えます。